



士会だより



「各部だより」

巻頭言

p. 2

各部だより

p. 3-11

数珠繋ぎ

p. 12

巻頭言



登録理学療法士更新元年 ー学び続ける組織が未来をつくるー

一般社団法人兵庫県理学療法士会
理事 熊谷 陽造

2026年度は、個人的に注目する4年に一度のサッカーFIFAワールドカップが開催されます。しかし、私たち理学療法士にとっては、それ以上に重要な節目の年でもあります。診療報酬改定、そして2022年度より開始された生涯学習制度における登録理学療法士の初めての更新が重なる年だからです。

今回の診療報酬改定では、リハビリテーション領域において大きな方向転換が示されました。①「量」よりも「質・成果」を重視する評価への転換、②リハ・栄養・口腔の一体的アプローチの標準化、③急性期から在宅まで切れ目のないリハビリテーションの強化、④タスクシフトを含むチーム体制の再構築など、私たちの実践に直結する内容が数多く盛り込まれています。

特に、休日リハビリテーションの提供体制や、専門職としてだけでなくチームとして質の高いリハビリテーションを提供することが求められ、まさに大きな転換点を迎えています。

一方、生涯学習制度についても2026年度・2027年度に向けた見直し内容が公表されました。更新年度となる登録理学療法士に関しては、①活動期間が12月末から年度末まで延長、②更新時研修の受講費無料化、③14のカリキュラムコード追加、④更新延長・猶予措置の見直しなど、学びを継続しやすい方向へ制度が改善されています。特に更新延長の要件は、子育てや介護などライフステージに応じた柔軟な対応が可能となり、未完了者への猶予期間は2年間とされ、その間に学術大会や学会参加が求められる仕組みとなりました。ぜひ計画的に今年度での更新を進めていただきたいと思います。

さて、2月22日現在の登録理学療法士更新ポイントの状況を見ると、更新要件である50ポイント以上の取得者は31%にとどまっています。「あと一年で50ポイントは無理やん」と感じている方もおられるかもしれません。しかし、まだ十分に間に合います。県士会では年間100本以上の研修会を無料で開催し、約300ポイントを獲得できる環境を整えています。さらにアーカイブ視聴による履修付与も可能となり、隙間時間を活用して「生涯学習制度認定対応」コンテンツを視聴することで、着実にポイント取得を目指すことができます。

登録理学療法士を更新する意義は、国家資格を有する専門職として「自ら学び続ける組織である」という責務を果たすことにあります。また、対象者にとっても、私たちが日々学び続けている姿勢が伝わることは「わかりやすい専門職」であるための大切な要素です。

学び続ける組織として成長することは、社会からの信頼に応えるだけでなく、リハビリテーションを支える専門職として制度を持続可能なものにしていく視点にもつながります。制度そのものには様々な意見があり、学びは本来、制度に縛られるものではありません。しかし、この制度を“学びの一つの手段”として活用することで、私たちの臨床を確実に支えてくれるはずです。

兵庫県理学療法士会として、皆さまが自らの臨床に必要な学びを選び取り、安心して学び続けられる環境づくりに引き続き取り組んでまいります。共に学び、共に成長し、兵庫の理学療法をさらに発展させていきましょう。まずはマイページをのぞいてみてはいかがでしょうか。

各部だより

災害対策部

災害避難所運営訓練に参加して得られた教訓

今回、令和7年度兵庫県・播磨広域合同防災訓練に参加し、避難所運営チームの一員として避難者アセスメント・福祉避難スペース環境調整の担当になりました。訓練では、地域の看護学生さんや住民の方の協力を得て、高齢者、妊婦、認知症、自閉症など、多様なニーズを持つ要配慮避難者役を演じてもらいました。私たちは兵庫JRATの支援チームとして、避難所内で避難者に向き合って聞き取りを行い、一人ひとりが抱えるニーズを具体的に把握し、必要な支援を避難所本部へフィードバックしたり、避難者のトリアージとアセスメントを行い、生活空間と避難所全体の環境調整につなげます。実際に聞き取りを行うと、その多様さと複雑さを深く実感しました。

初めての訓練参加で、当日は雨天でしたが、現実の災害下でも天候が急変することもあるため、雨天の状況をあえて体験できたことは、重要な教訓を得るうえで非常に有意義でした。雨天での訓練は、避難所生活の具体的な問題点を感じることができました。雨による気温低下は、床で過ごす避難者の寒さによる体調不良リスクを高めます。また、床や階段が濡れることによる転倒リスクの増加や、屋外活動の制限による身体活動の低下など、健康と安全に関わる課題が明らかになりました。また訓練を通じて、専門職としての初動の難しさを痛感しました。情報として知っていても、実際の状況に直面するとすぐに行動に移せない、どこから動くべきか戸惑う、という課題を認識しました。さらに、情報収集や対応を進める際は、自分たちのチームだけでなく、他の職能チームとの連携を常に視野に入れながら行うことの重要性を学びました。

今回のような雨天と低温下での長期間の避難生活は、身体的負担の蓄積や精神的な疲弊に直結すると身を持って体感しました。また、備蓄品の品数や数量も想定外の状況には対応しきれない現状がある事も認識できました。

この訓練は、専門職として「いざという時にどう動くべきか」を実践的に学ぶ大きな機会となりました。同時に、専門職である以前に、一人の人間として災害への備えをしておくことは、自分自身を助け、ひいては避難所の負担軽減につながる重要な行動であるという教訓を得ることができました。

政光 章司(訪問看護ステーションかいほつ)

「災害リハビリにおける感染予防対策について」を受講して

2025年9月2日(火)、兵庫県理学療法士会災害対策部及び兵庫JRAT運営委員である佐野一成先生による『災害リハビリにおける感染予防対策について』を受講させていただきました。

災害リハビリテーションという言葉は聞き慣れない用語であり、どのような内容か興味を持ちながら研修に臨みました。研修の内容は佐野先生自身のご経験した話や具体例を交えながら、とても分かりやすく学ぶことができました。特に災害が起こると環境の変化が起こり、理学療法士という専門的な立場で、どういった視点をもち対応していけばよいのか、生活環境整備の重要性や感染症対策など学ぶことができました。

私は回復期病院で働いているため、コロナ禍から、感染対策については理解して実施していたつもりでしたが、今回の講習で感染対策の重要性や難しさを改めて実感しました。

私自身も阪神・淡路大震災を経験しました。近年では、震災以外にも様々な自然災害が各地で発生しています。そんなさまざまな災害に対して、今回の研修で学んだ災害リハビリテーションや感染対策に対する知識を活かして、私でも色々な人々の支援や社会に貢献できる可能性があるかもしれないと感じました。

今後も災害リハビリや感染対策について、自己研鑽していければと思います。貴重な講義をありがとうございました。

山口 美佳(神戸リハビリテーション病院)

今回の講演を拝聴し、災害時における医療従事者の役割や現場の様子について学ぶことができました。私はこれまでこうした現場の状況についてほとんど知らなかったので、避難所での課題や医療者の取り組みについて聞き、多くの気づきがありました。

講演では、避難者の状況に応じたリハビリテーショントリアージや、活動不足による深部静脈血栓症(DVT)やうつ病の予防、そして嚥下や口腔ケアによる肺炎の予防が重要であることが紹介されていました。さらに災害弱者への支援や福祉用具の提案、生活環境の整備など、多方面にわたる取り組みが行われていることが紹介されました。こうした活動は、感染症予防を基盤にしながら、避難者の生活全体を支える重要な支援だと感じました。また、過酷な現場では医療者自身も体調に影響が出ることがあり、派遣中に便秘になるなど、現場でしか分からない体の変化もあると聞きました。加えて、手袋や保護具などの備品が自分のサイズに合わない場合もあるという話も印象的でした。こうした経験から、事前準備や自己管理の大切さを改めて実感しました。基本的な感染症の知識を定期的に学び直すことも、現場での判断や行動に役立つことが分かりました。

今回の講演を通して、災害時のリハビリは「感染症予防」と「生活支援」を両立させる必要があることを学びました。そして、こうした過酷な現場で被災者に寄り添い続けている最前線の医療従事者の方々に、改めて感謝の気持ちを抱きました。

谷家 遥(神戸リハビリテーション病院)

「第4回災害リハビリテーション研修会 「災害リハビリテーション支援者に求めること・知ってほしいこと-現地支援活動から考える-」に参加して

今回の研修は実際に被災地で支援活動を行ってこられた勝谷先生の講義であり、現場の具体的な状況や判断の難しさが随所に盛り込まれており、非常にわかりやすく、実践を強く意識した内容でありました。

研修を通じて、災害リハビリテーションの目的は単なる機能回復ではなく、生活不活発病の予防や災害関連死を防ぐことにあり、被災者が早期に自立した生活を再建できるよう支援することが重要であると理解しました。さらに避難所における段ボールベッドの使用、簡易手すりの設置やトイレ環境の改善などの環境調整が、被災者の生活の質や安全性に直結する点は私も令和6年能登半島地震の支援に参加した際に肌で感じました。

また、JRATの活動は多職種・多団体との連携が不可欠であり、指示系統を守りつつ主体的に動く姿勢や、情報共有の重要性が強調されていました。それは平時からの準備や研修、人材育成が災害時の迅速かつ適切な支援につながることを改めて認識しました。今回の研修で得た知識と視点を、日常業務や今後の防災・災害対応に生かしていきたいと思えます。

喜田 直樹(本山リハビリテーション病院)

この度、勝谷将史先生による「災害リハビリテーション支援者に求めること・知ってほしいこと」を拝聴し、JRATの活動概要からチーム編成、現地での支援の流れまで、災害支援の実際を体系的に学ぶことができました。特に印象に残ったのは、「地域リハビリテーション」の視点の重要性です。避難所支援では、支援者が主導して体操指導を行うだけでは不十分であり、住民主体の活動へいかに移行させるかが鍵となります。誰でも実施できるパンフレットの活用や、他団体との連携によって活動を地域に根づかせる工夫など、現場に即した支援の在り方は、今後の業務においても大きな指針になると感じました。

また、「平時から有事に備える」という考え方は、今回得た最も大きな気づきです。災害時に住民が支援を待つだけでなく、自らの健康を能動的に守れる体制を平時から構築しておくことこそが、災害リハの本質であると理解しました。

今後は、日々のリハビリテーションにおいても、単なる機能訓練に留まらず、住民が自立して動ける基盤づくりを意識して取り組んでまいります。また、有事の際に他団体と円滑に連携し、地域に根差した支援を展開できるよう、学びを院内で共有し、平時からの意識向上にも努めていきます。貴重な学習の機会を頂き、誠にありがとうございました。

長谷川 博一(神戸リハビリテーション病院)



10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む
総合リハビリテーション学部

理学療法学科
理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科
作業療法士国家試験受験資格

総合リハビリテーション学研究科
大学院 修士課程・博士後期課程

神戸学院大学
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
有瀬キャンパス TEL (078) 974-1551 (代表)



救急救命からリハビリテーションまで
現場さながらの「チーム医療を学ぶ」

神戸医療福祉専門学校中央校 650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目6番3号 介護福祉士科 鍼灸科 精神保健福祉士科 社会福祉士科	神戸医療福祉専門学校三田校 669-1313 三田市福島501-85 理学療法士科 作業療法士科 言語聴覚士科 救急救命士科 義肢装具士科4年制	姫路医療専門学校 670-0927 姫路市駅前町27番2 作業療法士科 言語聴覚士科 臨床工技士科 救急救命士科
--	--	--

各部だより

スポーツ活動支援部

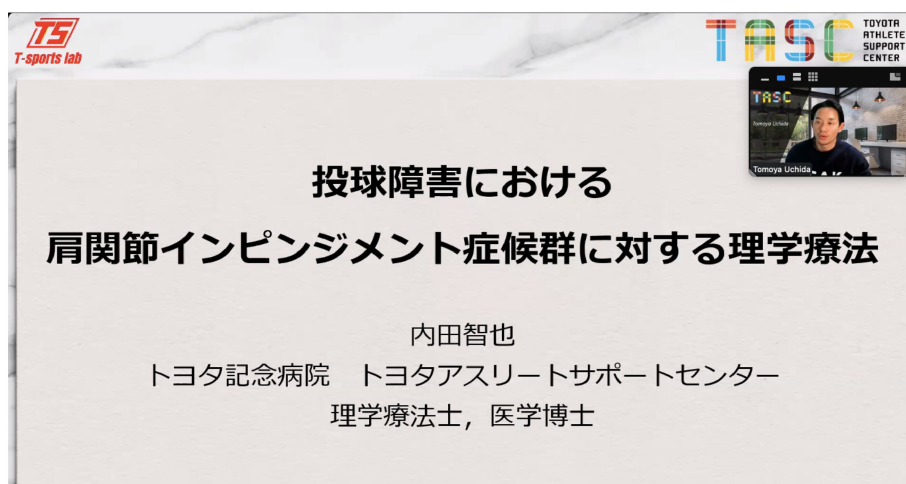
『投球障害における肩関節インピンジメント症候群に対する理学療法』

2025年11月15日(土)、スポーツ活動支援部・野球班はオンラインにて勉強会を開催いたしました。今回は、臨床からスポーツ現場、研究など多方面でご活躍されているトヨタ記念病院／トヨタアスリートサポートセンターの内田智也先生を講師にお迎えし、『投球障害における肩関節インピンジメント症候群に対する理学療法』をテーマにご講演いただきました。

投球動作周期における肩甲骨腕関節・肩甲骨胸郭関節の協調性や生じやすい機能不全など、インピンジメント症候群の発生機序を解剖学的・運動学的観点から詳細にご解説いただきました。さらに貴重な研究データを用いた評価指標やアプローチ方法など、具体例を交えてご提示いただき、大変学びの多い時間となりました。

本勉強会には、当初の定員100名を大幅に超える反響が寄せられ、最終的には160名以上の方々にご参加いただきました。県外からの参加もあり、投球障害に対する科学的アプローチへの関心の高さを伺える機会となりました。今後も野球班では、選手の障害予防やパフォーマンス向上に繋がる学びの場を提供していきます。

佃 美智留(たちはら整形外科・肩とスポーツのクリニック)



【参加者の感想】

今回の勉強会では、投球障害における上腕骨後上方部の異常所見や求心位の評価について学びました。特に肩甲骨上方回旋不足が求心位の破綻を引き起こす点が印象に残りました。私は上腕骨側の要因にばかり着目していて評価の視野が狭くなっていたと感じました。また、500グラムの重錘を持つだけで求心位が乱れることを知り、肩甲骨を含めて評価することやスタティックなアライメントでの求心位を各ポジションごとに獲得していくことの重要性を再確認しました。日々の臨床において投球障害のみではなく、肩関節疾患の介入でも、求心位の重要性を意識して取り組んでいきたいと感じました。

信重 遼陽(段医院)

障害者マルチサポート班活動報告

令和7年11月9日(日)「しあわせの村」にて、様々なパラスポーツを見学・体験することができる「パラスポーツ王国“夢プロジェクト2025”」が開催されました。

今回はパラスポーツに関わる人材育成を目的にスポーツ活動支援部が大会時に選手のコンディショニングなどのサポートを行っている車いすテニスを中心に実際の競技や特性などを体験して頂く予定でしたが、雨天のため車いすテニスを含む屋外競技はすべて中止となり、屋内競技のみ開催となりました。雨天にも関わらず、今年も多く参加者で盛り上がり、参加された県士会会員の方にも見学・体験を通じてパラスポーツの面白さ、驚きや楽しさを実感して頂き、日々の臨床で担当している患者様や養成校で指導している学生にもパラスポーツへの参加を促していきたいという思いにつながることができました。

今後も様々なパラスポーツに関わる人材を育成していきたいと考えています。

山西 浩規(正愛病院)



【参加者の感想】

今回、パラスポーツ体験会に参加し、これまで自分が抱いていたイメージとの違いを多く感じました。まず驚いたのは、想像以上に競技種目が多く、それぞれの競技に細かなルールやクラス分けが設けられている点です。どの競技も非常に戦略性が高く、参加者が熱中して取り組める「スポーツ」として確立されていることを実感しました。また、今回の体験を通して、パラスポーツの魅力や意義をより多くの人に知ってもらう必要性を強く感じました。障がいを持つ方々がスポーツを通して自己実現や社会参加の機会を得ることは、QOLの向上につながります。そのためにも、私たちが実際に体験し、理解を深めたうえで、その魅力を学生や周囲に伝えていくことが大切だと改めて感じました。

今後は、こうした体験の機会を学生にも提供し、在学中から障がい者スポーツに触れることで、臨床現場への理解や関心を高めるきっかけづくりをしていきたいと考えています。パラスポーツは「支援の対象」ではなく「共に競い合い、成長できる場」であることを改めて学ぶ貴重な機会となりました。

勝岡 寛之(神戸医療福祉専門学校三田校)

パラスポーツが実際にどのような種目があって、どういうルール下で行なっているかを知ることができ良い経験になりました。私が体験したかった車椅子バスケットは、想像以上に大変で、ドリブルでの上半身の使い方が難しかったです。指導者の方は、身体の使い方が上手で教わる事ばかりでした。

今回の経験を通して、理学療法士の職域の広さを改め考えさせられました。今後は患者さんにパラスポーツを伝えられるよう、今日の経験を基に知識を深め、さまざまな活動に携わっていききたいです。

横田 直斗(はりま姫路総合医療センター)

神戸マラソン2025活動報告書

11月16日に開催された「神戸マラソン2025」には、兵庫県理学療法士会から大会サポートとして40名のトレーナーが参加しました。大会に向けては11月1日に事前勉強会を実施し、17名の先生方にご参加いただきました。勉強会では、マラソンで頻発する疾病や障害への対応、そして心肺停止を想定した一次救命処置(BLS)の実技を行い、現場で必要となる知識と技術の確認を行いました。

今大会はリレーランを含め20,913名が出走しました。新コースでは、折り返し後に明石海峡大橋や淡路島を望む景観が楽しめるほか、フィニッシュが神戸ハーバーランドとなり、神戸らしいウォーターフロントの雰囲気味わえるルートに刷新されました。高低差が約10メートルと「ほぼフラット」のコースとなったことで、従来の“坂の難所”が解消され、記録を狙うランナーから初心者まで走りやすいと好評でした。

救護については、ゴール直後の救護所の混雑は例年通りとなりましたが、更衣室・荷物返却までの導線が長く、適度な歩行がクールダウンとして機能したことで、それ以後の救護所への搬送は少なく推移しました。新コースではゴール後の歩行距離が増える点を懸念していましたが、結果としては回復を促す要因となり、心肺停止事例もなく、完走率は96%と高く、多くのランナーを安全にサポートし、無事に大会を終えることができました。

重松 ちあき(益子整形外科)



【参加者の感想】

神戸マラソン2025に大会トレーナーとして参加いたしました。初めての活動で不安もありましたが、事前勉強会や説明会を通じて役割を理解し、大会当日を迎えることができました。勉強会では競技特性に基づく怪我の知識を学び、実技ではテーピングや一次救命処置を習得しました。昨年の事例や活動仲間との交流も安心感につながりました。

当日はフィニッシュエリアを担当し、筋痙攣や熱中症疑い、低体温症疑いなど多様な症状のランナーに対応しました。事前学習を活かし一定の対応はできましたが、十分なケアを提供できなかった面もあり、今後はさらなる自己研鑽に努めたいと考えております。

森野 朋(神戸医療福祉専門学校三田校)

神戸マラソン大会サポートのトレーナー募集は毎年7月中旬ごろにHPTAの広報にてご案内しております。ご興味がある方はお申し込み、ご参加下さい！

～選手はみなさんのサポートを待っています！～

～柔道班勉強会活動報告「肩関節のスポーツ傷害に対する戦略—肩関節前方不安定症 (ASI) に対しての評価、テーピングについて—」～

スポーツ活動支援部では今年は開催されませんでした。柔道大会の救護活動において活用できる知識を共有する機会として、2025年11月27日に対面での実技勉強会を開催しました。つくだ整形外科の古賀大介先生に「肩関節のスポーツ傷害に対する戦略—肩関節前方不安定症 (ASI) に対しての評価、テーピングについて—」をテーマにご講演いただきました。参加者は14名と多数の先生方と実技を交えつつ、知識の共有を行うことができました。ASIに対しての評価方法や肩関節周囲のエコー動画を交えつつ、柔道に多い肩関節脱臼を想定したテーピング方法についてご指導頂き、現場をイメージしながら取り組む事ができました。今回の学びを今後のスポーツや臨床場面で活かしていきたいと思っております。

只津 美紀(兵庫県立リハビリテーション中央病院)



【参加者の感想】

肩の前方不安定性を有する症例に行うテーピングの講習を受けました。前方不安定性は外傷や肩前方組織の筋力低下など原因は多岐にわたります。よって整形外科テストと確実な触診を用いて、正確に前方不安定の有無を判断する重要性を一番に感じました。今回はテーピングの基礎が中心でしたが、本来は競技特性に阻害しないような巻き方を学んでいく必要もあるため、今後も実技の講習会に積極的に参加していこうと思えました。

寺井 翔哉(三輪整形外科クリニック)

スポーツ活動支援部のサポートには日頃スポーツ選手に関わる事のない病院、介護施設勤務の理学療法士も多く参加していただいております。スポーツ活動を支援するサポートスタッフに興味のある方は、QRコードまたは兵庫県理学療法士会HPにアップされる「現場活動のお知らせ」、「勉強会のお知らせ」に是非お申し込みください。皆さんとスポーツ活動のサポートができることを楽しみにしております。

【申し込み先】スポーツ活動支援部 中西拓也 e-mail:supokatsu2008@gmail.com



兵庫県高校野球連盟主催「関西国際大学指導者講習会」

2025年12月13日(土)、関西国際大学第二グラウンドで兵庫県高校野球連盟主催「関西国際大学指導者講習会」が開催されました。大学野球部のコーチからポジション別の守備や打撃についての指導が実施される中、スポーツ活動支援部野球班と協力スタッフの6名で「故障防止」について選手への実技指導を行いました。晴天に恵まれ予定していた全4セッションを無事実施することができました。各校を代表して参加した選手に傷害予防に必要なストレッチやパフォーマンスアップにつながるトレーニングについて、実施前後の評価で変化を確認しながら伝えることができました。

村岡 潮美(神戸百年記念病院)



【参加者の感想】

昨年に引き続き、兵庫県高校野球連盟主催「関西国際大学指導者講習会」に参加させて頂きました。障害予防をテーマに県内の選手にストレッチを指導しました。パフォーマンス向上についての情報も説明しながら実際にストレッチでの身体の変化を感じてもらいました。昨年よりも選手とのコミュニケーションを図ることができ、選手の疑問解決に少しでも力になれたのではないかと感じています。少しでも最新の情報を選手たちに伝えられるように日々知識の習得に励みたいと思います。今後も多くの選手が怪我無く、最高のパフォーマンスを発揮してもらえるようにスポーツ活動支援部の行事に積極的に参加していきたいと思っています。

柳澤 龍登(兵庫県立リハビリテーション中央病院)

看護リハビリテーション学部
理学療法学科

女性だから、できるケアがある。
女子大学で、女性のための理学療法を学び、リーダーシップがとれる理学療法士へ。

甲南女子大学
K KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

理学療法学科公式サイト
理学療法学科公式 Instagram

創立52年の歴史を持つ医療の総合教育校

- 診療放射線科
- 臨床工学科
- 視能訓練士科
- 理学療法士科
- 作業療法士科
- 言語聴覚士科
- 歯科衛生士科
- 臨床工学専攻科

Since 1973 医療法人社団 慈恵会
KCC 神戸総合医療専門学校

〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7丁目1番21

神戸総合医療 検索 スマートフォンに最適

お問い合わせはこちら TEL 078-795-8000(代) HP <https://www.kobecc.ac.jp>

各部だより

こども生涯支援部

公開研修会の報告

令和7年11月9日(日)、OGIMOテック開発室の廣瀬元紀氏を講師にお迎えし、「遊び心を広げるモノづくり～こどもの想いに寄り添って～」をテーマに公開研修会をオンラインにて開催しました。

廣瀬氏はモノづくりの技術者であり且つ障害を持たれた子どもさんの親でもあるため、両者の立場からこどもの可能性を広げていくことについて、とても分かりやすく、具体的な内容でお話しいただきました。ただモノづくりをした過程のお話ではなく、親としてこどもの可能性や家庭・社会での役割をどのように捉えてきたのか、今まで積み重ねてきたことも含めてお話しいただいたため、私たち理学療法士にとっても日々の関わりのヒントとなったと感じています。参加者からも「子どもへの寄り添いかた、視点、工夫から生まれる可能性がたくさん詰まった講習会だった」「本人の意思なのか介助者の意思なのか、今後の活動場面において取り組み方を考えていきたい」といった感想が寄せられました。ただ、実際に作製したモノを見て触れてみたかった、という意見もあったため、今後は内容によっては対面開催も検討していけたらと思います。

松永 梓

医療で社会をつなぐ「医療社会人」を目指す



宝塚医療大学
TUMH
TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL and HEALTH CARE

保健医療学部
理学療法学科 薬道整復学科 鍼灸学科 口腔保健学科
和歌山保健医療学部
リハビリテーション学科 看護学科
観光学部
観光学科 2024年4月開設

0120-00-1239



解き放て、**医**の力

実践的なIPEで、強い医療人へ

兵庫医科大学は、医・薬・看護・リハビリテーションの4学部を擁する医学総合大学、医学部医学生が中心にIPE(多職種連携教育)で人々の健康づくりを推進している。また、産学連携で医療人を育成している。

EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり

医学部 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部

H 兵庫医科大学

～精緻の教員陣による人間教育～

リハビリテーション学部
理学療法学科



神戸国際大学
STAMPEL SKULL

リハビリテーション学部/経済学部
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6
TEL: 078-845-3111(代表) FAX: 078-845-3200

リハビリ訪問看護ステーション部 アスリートサポート部 ソーシャルメディア広報部

Steps
想いをカタチに

予防医療部 ウイメンズヘルス部 ICTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754
〒652-0033 神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

神戸西事務所 TEL 655-0013 FAX: 078-845-3200
〒655-0013 神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203





医療法人尚和会
宝塚リハビリテーション病院
蓮井 成仁 氏



私は宝塚リハビリテーション病院で、主に下肢骨折後や脳卒中後の患者さんの理学療法に携わっています。当院の回復期リハビリテーションでは、「その人らしさ」を取り戻し、退院後の生活で再び活動できるようになることを目標に関わっています。そのため、日々の臨床では身体機能だけでなく、「退院後はどのように生活していきたいか」という思いを拝聴し、ご意向や家屋環境なども踏まえて目標設定に結びつけています。

最近では、立位や歩行の課題を捉えるため、カメラによる姿勢推定、筋電図、IMUセンサーなども活用し、これらの評価結果を部署内や患者さんと共有しながら治療プログラムの立案に反映しています。また、このような一連の評価から生まれた臨床疑問を確かめ、その知見を現場に還元していくよう心がけています。

回復期は、できることが増える時期でもあります。同時に不安や失敗を経験する時期でもあると考えています。だからこそ、安心して成功・失敗にかかわらず一歩を踏み出せる環境や雰囲気を作ることを大切にしています。こうした確かな一歩に立ち会えることが、理学療法の難しさであり魅力だと感じます。

次は、西宮市社会福祉協議会総合福祉センターにて従事される岩松 瑞季さんにお繋ぎします。

略歴

- 2014年3月
兵庫医療大学
リハビリテーション学部
理学療法士科 卒業
- 2014年4月～
医療法人尚和会
宝塚リハビリテーション病院 入職

趣味

- ゴルフ、ゲーム実況を観ること、
理学療法

県士会だより 第209号
発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者／間 瀬 教 史
編集者／筒 井 章 悟

ホームページ
<http://hyogo-pt.or.jp/>



表紙写真

各部の研修会や活動時の様子になります。
活動の様子や研修会報告はホームページやSNSでも紹介していますので、併せてご確認ください。

一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階
TEL 078-367-7311

